

安曇野市交流学習センター運営委員会 会議概要

1	協議会名	平成26年度第1回安曇野市交流学習センター運営委員会
2	日 時	平成26年 5月 27日 午後 1時 30分から午後 3時 30分まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学習センター“みらい” 多目的交流ホール
4	出 席 者	神谷委員長、野中副委員長、小平委員、山本委員、内田委員、望月委員、重野委員、鈴木委員、宮下委員
5	市側出席者	北條教育長職務代理者教育部長、赤羽図書館交流課長兼穂高交流学習センター所長、青柳豊科交流学習センター所長、小林図書館交流課長補佐兼図書館交流担当係長、財津図書館交流担当係長、野中図書館交流担当主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年 6月 15日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1. 開 会 (赤羽図書館交流課長)
2. あいさつ (北條教育長職務代理者教育部長)
3. 協議・報告
  - (1) 平成25年度事業報告
    - ・穂高交流学習センター“みらい”
    - ・豊科交流学習センター“きぼう”
  - (2) 三郷交流学習センター(三郷図書館)の計画について

○協議概要

- (1) 平成25年度事業報告

各交流学習センター所長より資料内容の説明。

委員・・情報活用学セミナーの参加者が6人であった。予算に対して需要がない事業を何故継続するのか。今後テーマを変えるなり、参加者が増えるような見通しがあればともかく、そうでないならばやるべきではないと思う。再検討していただきたい。

事務局・セミナーについては、信州大学と今年度どのようにするか協議の場を設けている。現在検討しているのは、安曇野検定合格者のスキルアップ講座としてこのセミナーを位置づけることだ。合格者が自主研究、自主調査をする場合に参考になるような講座を開きたいと考えている。今年度は反省して、具体的な計画作成時は、昨年度より間口を広げた形で進めていきたい。

委員・・スキルアップ講座は良い企画だと思う。市民の間には安曇野の歴史や文化等を知りたいという欲求がある。これからも安曇野ならではの企画を追求していただきたい。

委員・・“きぼう”での熊井啓作品上映会について、ぜひ今年も上映してほしい。定員200名は予約ですぐに埋まったが、当日は大雪のために、来場者数は103人だった。私も予約の電話を入れた時、100人待ちという話を聞いた。これほど人気のある作品であり、当時見逃してしまったような人のためにも、上映を希望する。

事務局・その方向で検討する。

委員・・現在建設中の本庁舎について、庁舎稼働後の駐車場対策を“きぼう”は考えているか。今でも駐車場が満車となる中で、何か対策を考えておかねば、本庁舎に訪れた人は“きぼう”の駐車場も使用してしまうと思うが。

- 事務局・本庁舎完成時は、地下駐車場等もある。そこが満車となってこちらに停めるとなると、我々としても非常に困る。ただ、本庁舎が完成した際は、土日や催しのあるときに本庁舎の駐車場を開放してもらい、利用させてもらえることも考えられる。どのような対策を打つかは、今後検討する。
- 事務局・補足説明すると、本庁舎側の駐車場は約300確保することになっている。“きぼう”の駐車場も含むと300以上の駐車スペースがあることになる。ただ、本庁舎完成後、どれ程の需要があるかは不明のため、現状より若干は状況改善されると考えている。
- 委員・・防災センターに駐車場はできるのか。防災センターに駐車スペースがあれば、“みらい”や図書館の催しの際に、駐車場に困ることも少なくなるのではないかと。
- 事務局・防災広場は多目的広場と舗装広場、管理事務所等で構成される。舗装広場は災害時に応援部隊の集合場所となるが、平時は本庁舎等のイベントがあった場合、約150台駐車可能となる設計予定である。
- 委員・・“みらい”の展示ギャラリー利用状況が50%前後と非常に低い。もっと活用すべきだ。企画の提案として、1点は今年開催される安曇野ハーフマラソンのコースを拡大して、何時頃にどこを通るかを見やすく分るようにすれば、市民全体で盛り上げることも可能になると思うがどうだろうか。また、その沿線の見どころや特徴を示した写真等を添えれば、それを見て参加したいと思う人が出てくるのではないかと。もう1点は、たとえば白金区の方々には地域のことを非常によく研究しており、その研究成果を回覧している。“みらい”で地元の歴史的な遺跡や人物等を紹介する企画を立てることは意義のあることだと思う。
- 委員長・“みらい”ではハーフマラソンをどのように扱うのか。そして、地元の研究の展示について。交流学习センターでは展示内容をどのように選定しているのか教えていただきたい。地区それぞれに同好会があり、様々な研究をしている。その中に見逃すことのできないような良い資料があるのではないかと。それらの発掘もお願いしたい。
- 事務局・昨年度の展示ギャラリー稼働率が落ちた背景の1つとして、一昨年に長期間行った、社会教育課と文化課のお祭りの特別展を25年度は行わなかったことが考えられる。ご指摘の通り、“みらい”は安曇野ゆかりの人物の顕彰施設として開館した。そのような地域学習の拠点として先人に学ぶというところで展示をしていくので、今年度は前年の反省を踏まえ、まず今年9月に“みらい”開館5周年記念として、特別展「安曇野ゆかりの作家展」を開催予定である。また、新宿の中村屋が観光大使となった関係で、観光課と生涯学習課と図書館交流課で協力し、相馬愛蔵と相馬黒光のパネル展を夏に開催する予定である。それまでの間も、写真展等でギャラリーの利用が入っている。スタイルは場所を展示ギャラリーに移し、規模を拡大したところ好評だったため、今年度も引き続き行いたいと考えている。ハーフマラソンについてのご提案は、前向きに検討したい。そして、地域の研究グループの情報や、調査結果の発表の場として“みらい”をどのように活用するかは、真剣に考えていかねばならないと我々も感じている。様々なケースが考えられるが、市民の方に安曇野市をよりよく知っていただくためにセンターを利用してほしいと考えているので、そのような情報があれば、ぜひ一報いただきたい。
- 委員・・“みらい”で行われる大きな1つの企画展、例えばこれを縮小してでもよいので、期間をずらして企画を“きぼう”や明科の“ひまわり”で再度行うことはできないのか。子どもや年配の人々は移動手段に限りがある。“みらい”を核として、各地域を巡回するような企画や展示を行って、次に繋げていくことができればよいのでは。
- 委員・・“みらい”まで来ることができない人々のために、各地域の図書館や交流センター等で展示をしていただくとありがたい。人物でもなんでも、その地元に関係のあるものは、やはり見にいこうという気持ちになる。ハーフマラソンについても、自分に直接、あるいは間接的に関係すると、見てみたいと思う。
- 委員・・展示に関連して、今後の計画を立てるにあたり、何が何周年になるのかということをもっと行政の中で情報交換や連携をして、取り組むテーマを出しあって決定するとよい。様々なものを関連づけていけば、楽しいテーマができるのではないかと。
- 委員長・各交流学习センター等で協力して、評判のよい企画だけでも巡回させることはでき

ないのか。各館で展示を完結させてしまうのは、もったいない。

- 事務局・作品の巡回展に関しては、“みらい”開館時に、安曇野ゆかりの人物展ということで、約200人のゆかりの人物のパネル展示を行った。現在ではホームページ上にゆかりの人物データを掲載しており、学校現場等で人物検索に活用いただいている。また、開館当時に作成したパネルをお貸しする形で、過去の企画展をその後も活用するよう取り組んでいる。また、文化課が行う学校への出前展示のような形で、教育委員会の文化施設が所持する情報や作品を必要なところへ持っていき、鑑賞に繋げる取り組みも徐々に行っている。しかし、“みらい”等は歴史的資料や美術品等の収蔵機能を持っておらず、企画展を行う場合は他から一定期間資料を借りて展示している。再度別の場所で展示するとなると、手続きを2度踏まなければならない、専門職員数も少ない中で多くの企画展開をしている現状では、すぐに対応することは難しい。そして、何周年といった区切りの周期事業としてどのようなものを展示していくかについては、話題性にも繋がる意見を提示していただき感謝している。
- 委員・・来年は終戦70年の節目を迎える。展示の循環も重要だが、1つのテーマに対して各館で違うことをするのもよいのではないか。他の課にも協力していただき、大人から子どもまで、様々な角度から検証できるような展示はどうだろうか。
- 事務局・複数の文化施設が1つのテーマに共同で取り組むことは今後行っていきたいと考えている。以前、東日本大震災後に、安曇野アートギャラリーで震災に関連するテーマの展示ができないかと議論したことがある。施設が違くと状況も違うため、全体で1つの結論を出すことはできなかったが、その中でも、例えばちひろ美術館では震災後をテーマとした作品展を開催する等、議論の成果はあったと考えられる動きもある。
- 委員・・“みらい”の多目的交流ホールも活かし、総合的に展示の企画をしていただきたい。また、文化課から図書館交流課が独立したということで、文化課と意思疎通を図り、展示を企画してほしい。
- 事務局・追加説明として、今年度から“みらい”“きぼう”の他に明科の“ひまわり”も図書館交流課の所管となった。“ひまわり”では施設の貸し館事業は行っているが、今年度は自主企画の計画がない。しかし、コンサートや講演会等を企画していきたいと考えており、内部職員間でアイデアを出している状況である。文化課と分れたことで、図書館交流課が主体となる施設も増えたため、“ひまわり”については具体案ができてきたら、また委員の皆様の意見をいただきたい。

## (2) 三郷交流学習センター（三郷図書館）の計画について

赤羽図書館交流課長より説明。

- 委員長・かなりしっかりとした設計図ができているが、これは既に固定ということで考えてよいのか。
- 事務局・今回はレイアウトを示している。ワークショップ時には、より細かい配置を、わかりやすいもので示したいと考えている。
- 委員長・5月13日に行われた検討会の中で、非常に大事な意見が出たと記憶している。多目的交流ホールについてだが、このホールはコンサートや講演会、ダンス等なんにでも利用できる。しかし、10人から20人前後で利用するにも見合うような場所はできないのだろうか。
- 事務局・予算の関係もあるが、今の三郷公民館講堂をよりよくする方法を先程のような提案をいただきながら検討していきたい。
- 事務局・本日の図面資料は公民館の1階のみのものだが、実際には2階建てである。2階には視聴覚室があり、現在この部屋が空いている。視聴覚室はある程度防音にも配慮された造りで、今度の整備時には視聴覚室が使用できるようになる。たとえば、大勢集まるような場合については多目的交流ホールを使用し、少人数の場合は視聴覚室を利用する等、うまく限定して使用していただきたい。もう1点、今回の三郷公民館にエレベーターを設置する。2階にそのような部屋を設置しても、誰でも利用できる

ような形になるように配慮したい。

- 委員長・使用できる部分があるならば問題ないと思う。もう1点は、絵画や写真のグループの人々が交流できるような展示ラウンジを広くとってあるか。
- 事務局・交流できるラウンジ機能を要するか、あるいは、多目的研究室やその他7部屋を展示も可能にするような造りにするかは、ワークショップ等で意見を聞き、計画に反映できるものはしていきたい。
- 委員・・身近に交流センターができることは、さまざまな催し物を見ることができるので、近くに住む者にとっては大変ありがたく嬉しいことである。しかし、安曇野市人口が将来減少するとの報道もされている中で、いくつも交流センターができると、各センターの稼働率等が分散すると思うが、それについてはどのように考えているのか。
- 事務局・市内の図書館を含めた施設は、地域の交流の場というコンセプトで建てている。人口減少の可能性は否めないが、それでも地域住民の交流のためには必要という判断をしている。地元住民の強い要望があるため、過度にならない大きさでの建設を計画したい。
- 委員・・安曇野市は合併後、公共施設が多すぎるために整理をしていこうという中で、この10年間に新しい物が多く建てられたが、30年程度経てばまた全て改修等をしなければならぬ。それは財政的に大丈夫なのか。あまりにも建物行政が多すぎるのではないか。
- 委員長・その話は当時、三郷でも出ている。私が思うには、そのことについては市議員となり、財政事情は十分に検討した。行政がつくろうと言ったのだから、我々にはどんなものを作るかを話してもらい、意見交換すればよいのではないか。三郷の交流センターについては、これからのワークショップで住民の意見を吸い上げて、立派なものをつくってほしい。
- 事務局・三郷村公民館講堂で、ワークショップを2回開催する。第1回は6月8日の日曜日、第2回は6月29日の日曜日、時間は両日ともに午後2時から4時までの予定である。都合のつく方はぜひ参加していただきたい。

以上